

學術雜誌・學術論文

學術雜誌



研究成果は
学術論文にまとめられ、
学術論文は、
学術雑誌に掲載されます。

電子ジャーナルが多いですが、
冊子体もあります。

學術論文

掲載雑誌の情報

掲載雑誌名, 発行年,
巻号, ページ数[illegible]

教育心理学研究, 2017, 65, 361—374

青年期・成人期における共感性、情動コンピテンスと道徳性の関連

瀧川 藍* 子安 摘 生**

本研究では、青年期（成人期）において、共感性の2側面（共感的関心・個人的苦痛）と情動コンピテンスの2領域（個々の感情・社会的感情）の自己調節・他者の理解・他者の感情の適切な表現・他者の感情の適切な理解）がどのように個人の道徳性（他者理解における他者感情）と関連しているのかについて検討した。参加者（382名）は、青年期用多次元的共感性尺度、情動コンピテンツプロフィールと親戚版、道徳的論理推論を兼ねた質問紙調査をオンライン調査に回答した。結果から、共感的関心は、様々な社会的状況における他者の感情的な道徳的判断にわたるものことが示された。また、情動コンピテンツ領域の他者の感情の適切な表現をのみ取り扱う側面と他者の感情の適切な理解をのみ扱う側面ではそれぞれ異なる形で道徳性に関与していることが示された。他者の感情の認識・理解と共感力は、ともに自己と他者の感情の両方に結びつきが強いことが示された。

キーワード：共感性、情動コンピタンス、道徳性

本文

問題提起（研究目的）、
研究手法と結果、考察
結論が述べられる

問 題

道徳性と情動の関係については、古代ギリシアやローマ時代から長きにわたって論じられてきた。同情、慈悲、愛ともうたふ感情の情は、道徳的な行動を司るが、道徳性の発達に必要とされる（Hoffman, 2000; Walker & Pitts, 2002）と道徳性（特に社会的行動）の発達に必要とする共通感と、社会生活の道徳性として議論として議論・研究がなされてきた（Batson & Salovey, 1988; Zahn-Waxler, & Roberts, 2003; Zahn-Waxler, 1983; Salovey & Mayes, 1990）とされている。道徳性や情動の発達を助ける発達環境においては、子どもを対象とした研究がごく頻りに行われてきたが、青年期以降を対象とした研究は少ない。しかし、個人の道徳性や情動の発達側面には、青年期以降に発達する個人要素がある。年齢によって変化することをも考慮しなくてはならない。本研究では、若く青年期から成人期を対象として、両者の発達を比較する。

共感性の定義は研究者によって異なるものの、青年期以降を対象とする共感性の研究では、共感性の個人差を多次元的に捉える見方が主流である (Davis, 1980; 加藤・高木, 1980; 登張, 2000)。例えば, IRI (Interpersonal Reactivity Index; Davis, 1980) や青年期用多次元の共感

* 和山女学園大学人間関係学部

mizokawa@sugiyama-u.ac.jp

性尺度(豊田 2003)においては、共感性の下位次元として、共感的関心、個人的苦痛、視点取得、ファンタジーの4次元が設定されている。そのうち共感的関心と個人的苦痛は、共感性の感情的側面、視点取得は共感性の認知的側面を測定しているとのうち(豊田, 2000)。

本研究では、共感性の2つの側面のうち、感情的側

に焦点を置く。共闘的傾向は、「下層社会への同情や関心」とに置き換えられ (Davis, 1980)、同情や関心への関心はこれに代わって (Lewis, 2000)、他者志向的な援助行動や社会的責任に繋がると考えられている。また他者の同情は、「自覚する対人状況での個人的な不安や動揺」と共に「自覚への気持」とに置き換えられ (Davis, 1980)、行動目標として「社会的な回復を喚起する」ものとなる。ただし、個人の苦痛や苦しみに対する同情からの回復が望ましい状態では、この社会的性質の緩和と共に援助行動に結びつく場合もある (Eisenberg, Bares, Schaller, & Miller, 1988)。このように、共闘的傾向と個人の苦痛、社会的行動との関係の仕方が異なるため、通常区別して扱われる (Barton, 2011)。その区別は社会的・社会的行動の発達過程に関する研究は多く行われてきた (例: Eisenberg & Fabes, 1980; Eisenberg & Miller, 1986; Hoffman, 2000)、それに比べて青年期以後を対象とした研究は少ないものの、青年期において、共闘的傾向は年齢層が若いほど、個人の苦痛や社会的責任への気持は年齢層が若いほど高くなる傾向がある (Eisenberg, 1986)。また、感情的苦痛の程度が低いほど援助行動の意図につながるという仮説も示されてきた (Gidycz, Coble, Benoit, & Mullen, 1997)。以上より、社会的責任の

抄録 (Abstract)

論文の内容を簡潔にまとめた文章。
研究の目的や手法、結果までが集約されている。

空 第65卷 第341

のと考えられる。他者の感情に対する共感反応は相手との親密度によって異なることが明らかになっていることから (Beckes, Coenig, & Hasselmo, 2013)、筆者らは、現在、他者との親密度が道徳推論に及ぼす影響について検討を進めている。また、自他の感情を認識・理解し扱う能力が、社会生活においてどのような状況で現れ、どのような機能を果たすのかについて、ストレスフルイベントへの対処等、別の社会的状況を課題として用いてさらに詳細に検討していくことも、今後の課題である。

引用文献

Batson, C. D. (1991). *The altruism question: Toward a social psychological answer*. Hillsdale, NJ: Lawrence Erlbaum Associates.

Beauchamp, J. L., Coon, J. A., & Hasselston, K. (2006). Familiarity promotes the blurring of self in the neural representation of self. *Social Cognition and Affective Neuroscience*, 1, 670-677. doi:10.1093/cnan/cno046

Blair, R. J. R. (2013). The neurobiology of psychopathic traits in youths. *Nature Reviews Neuroscience*, 14, 788-799. doi:10.1038/nrn3577

Brasseur, S., Grégoire, J., Bourde, K., & Mikolajczyk, M. (2013). The Profile of Emotional Competence (PEC): Development and validation of a self-reported measure that fits dimensions of emotional competence theory. *PLoS ONE*, 8(6), e62635. doi:10.1371/journal.pone.0062635

Davis, M. H. (1980). A multidimensional approach to individual differences in empathy. *FAS Catalog of Selected Documents in Psychology*, 10, 85-103.

Davis, M. H. (1983). Measuring individual differences in empathy: Evidence for a multidimensional approach. *Journal of Personality and Social Psychology*, 44, 115-126. doi:10.1037/0022-3514.44.1.115

Davis, M. H., & Franzoi, S. L. (1991). Stability and change in adolescent self-consciousness and empathy. *Journal of Research in Personality*, 25, 79-87. doi:10.1016/0022-6566(91)90006-C

Eisenberg, B. R. (1979). Development of children's prosocial moral judgment. *Developmental Psychology*, 15, 128-137. doi:10.1037/0012-1649.15.1.

文献リスト

研究に使用した文献の一覧

※画面引用

溝川 藍・子安 増生「青年期・成人期における共感性・情動コンピテンスと道徳性の関連」

教育心理学研究, 65 卷 3 号, 2017, p. 361-374

DOI : <https://doi.org/10.5926/jjep.65.361>

選択と情動コンピテンスとの関連の結果に影響した。

■ 学術論文とは

大学教授などの研究者が研究成果をまとめた論文です。最新の研究内容は、まず論文で発表されます。主に文系では、その後、本にまとめられることがあります。平均的な数量は数十ページと短いですが、最先端の研究が凝縮されています。

論文誌と情報誌

學術論文は、學術雑誌に掲載され
 ます。學術雑誌には、主に學術論文
 を掲載する學術論文誌と、初学者や
 一般の人向けに、注目の研究を紹介
 したり、勉強方法を案内したりする
 學術情報誌があります。上では學術
 論文誌を紹介していますが、まずは
 學術情報誌を読んでみてください。
 たとえば『こころの科学』『化学』

ニトツプジャーナル

国際的な学術論文誌は、掲載した論文が他の論文にどれだけ引用されたかによって、点数がつけられています（Eインパクトファクター）。

自然科学系は、有名な『Nature』

論文ができるまで

1. テーマを決める

面白そう！
役に
たつかな？
他に研究
してる人
いるかな？
先行研究
調べなきゃ
お金は
あるか？

2. 研究する

新しい
発見かな？
知らない
だけかもね
また、
文献さがそう
リゴ

3. 論文を書く

データ
合ってるかな？
参考文献も
整理して・
この専門用語
英語でなんつう
ちゃんと
ごはんも
食べて。

4. 学術雑誌に
投稿する

チェック中…
さく
どく
読
査
掲載 OK！
Journal

5. 次の研究に
とりかかる。

エンドレス
だな

先行研究の調査とは、同じテーマで発表されている論文や本（＝先行して行われている研究）を探すことです。これまたに分かっていることを確認し、研究の足掛かりをつかんだり、テーマを見直したりします。

文献調査は研究中也頻繁に行います。使った文献は、文献情報を控えておき、論文を書くときに文献リストを作成します。

普通の辞書では調べられない専門用語は、専門用語辞典を使用します。（文献データベースで他の研究者が使っている用語を調べる、という方法もありますが・・・）論文や抄録に使用するキーワードを同じ学問分野でよく使用される言葉にすると、論文を見つけてもらいやすくなります。

■ 査読（peer review）とは

学術雑誌に投稿された論文は、同じ研究分野の研究者がチェックします。これを「査読（さどく）」といいます。トップジャーナルほど採択率が低く、査読も厳しくなります。

査読を経て掲載が認められると、雑誌の発行に先行してインターネットで公開されることもあります。ニュースで発表されるのもこのタイミングです。

学術雑誌には、査読がないものもあります。（一般的に、紀要には査読がありません。）一概に信頼度が低いとは言えませんが、留意しておく必要があります。

学術雑誌の種類



学会誌

「学会」が発行する雑誌。論文誌や学会ニュース誌、学会会議録（予稿集）が発行されます。

商業誌

出版社が発行する雑誌。国際的に有名な学術雑誌や、学術情報誌などがあります。

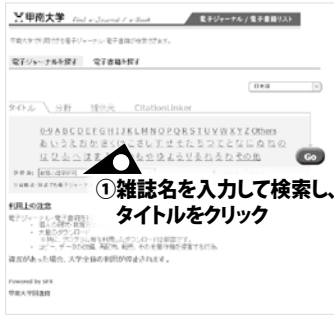
紀要

大学などの研究機関が所属する研究者の論文を集めて発行する論文誌です。

学術雑誌の探し方

読みたい学術論文が掲載されている雑誌や巻号が分かっているときは、雑誌名から電子ジャーナルと冊子体の雑誌を探します。

① 電子ジャーナル・電子書籍リスト



①雑誌名を入力して検索し、タイトルをクリック



②電子ジャーナルへのリンクが表示される

② 冊子体（蔵書検索システム）

甲南大学 OPAC 蔵書検索システム	
● 甲南大学図書館 ● リポブリ ● デジタルアーカイブ ● スマホ版 ● 甲南大学HP	
雑誌情報詳細	
雑誌名	内容
雑誌ID	SB00054300
国際和洋	雑誌/和書
NII蔵書番号	AN00345837
発刊(年4回)	季刊(年4回)
ISSN	00215015
題名/著者	教育心理学研究 / 日本教育心理学協会編集
発行期間	1953年(昭和28年)～
出版事項	東京: 国士社, 1953-
形態	冊: 26cm
電子情報	日本教育心理学協会 二ホム キョウイク シンリカク キョウカイ <DA13054931>
蔵書情報	日本教育心理学協会 二ホム キョウイク シンリカク <DA00475223>
所蔵	請求番号
雑誌部 和洋誌	1-20, 25-60, 61(1-3)<1953-2013>

②所蔵場所

①甲南大学に所蔵がある巻号が表示

飛んでいる番号は欠号です。

発行されてから1～3年の雑誌は2階雑誌コーナーにあります。注記を確認してください。

雑誌館に所蔵されている雑誌は1階カウンターで利用申し込みを受け付けています。

各分野に点数の高いトップジャーナルがあります。とはいえ、国際的な学術論文は、内容も英語も難しいので、まずは先生や先輩から読み方を教わりましょう。『Nature Digest』や『日経サイエンス』など、日本語で要点を説明してくれたら、邦訳を掲載している雑誌を利用する方法もあります。また、分野によっては、論文誌以外に学会会議録(Proceedings)もよく使われます。

人文科学・社会科学系は、極端なランク付けはありませんが、やはり各分野に中心となる雑誌があります。自分の研究分野にどんな雑誌があるのか、一度調べてみてください。

一つ一つの「論文」も、ダウンロード数や被引用数、SNSの反応などによって評価(Ametrics: オルトメトリクスなど)されることがありますが、どの雑誌に掲載された論文でも、本当の価値がいつ、どのように開花するかは、読む人次第です。